

令和8年度 学校経営計画

石川県立小松高等学校

校長 馬場 智子

1 教育目標

- ① 自主自律、明朗誠実な生活態度を養う。
- ② 個性を伸ばし、正しく豊かな人間関係を培う。
- ③ 知性を高め、情操を陶冶し、文化創造の意欲と資質を培う。

2 中・長期的目標

「自ら課題を発見し、正答のない問題に粘り強く取り組み、解決することができる探究力を持った生徒」を育成し、将来、地域をリードし世界で活躍する人材を輩出する文武両道の進学校として、高く評価される学校づくり

(1) 学校の現状

- ① 本校は、「文武両道」「自主自律」を重んじる校風を伝統とし、社会の中核となって活躍する多くの人材を輩出してきた。恵まれた環境と「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」「いしかわニュースーパーハイスクール（NSH）」の指定を生かし、高い学力と豊かな人間性を身につけ、国際社会に通用する人材の育成を目指している。
- ② 生徒は高い能力・資質を有し、勉学・部活動とも意欲的に取り組んでいる。3年間の指導体制「小松メソッド」を軸に、進学実績でも成果を上げている。しかし、入学時より学力に幅があることから、それぞれの層に応じて学力を伸ばす指導の工夫がより一層求められている。「自分で考え、行動する力」「自己を管理する力」の育成が課題である。
- ③ PTA・同窓生は学校に対する関心や期待が強く、学校を支援しようとする意識も高い。同窓生には地元企業をはじめ大企業や各界で活躍されている方も多く、そうしたつながりを有機的に教育活動に生かす体制が求められている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 自律的に行動し、他者とコミュニケーションを取りながら協働して、課題解決に向けて粘り強く探究する生徒の育成
- ② 高い志を持ち、学力向上に励み、自己の進路実現に向けて主体的に取り組む生徒の育成
- ③ 将来、地域をリードし世界で活躍する人材として、良識と強い責任感を持ち合わせ、他者を思いやることのできる心豊かな生徒の育成

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 教職員一人一人が学校経営に参画する意識を持ち、より良質の教育活動が提供できるよう、研修等を通じて授業力・指導力の向上に努める。
- ② 学習指導、進路指導、生徒指導を柱として、指導の方向性を全職員が共有し、組織的・機動的に指導にあたる。
- ③ 教職員が心身ともに生き生きとして活動できる職場づくりに向けて、組織的に多忙化改善に取り組む。
- ④ 地域や関係機関、PTA等と連携・協力し、生徒、教職員、地域にとって安全・安心な学校づくりを図る。

3 今年度の重点目標

(1) 学びのある学校

- ① 学習習慣の確立に向けた指導や学力層・個に応じた学習指導により、上級学校進学のための学力を保障する。
- ② すべての教科科目において、自ら課題を発見し、正答のない問題に粘り強く取り組み、解決することができる探究力を育成する。また、一人一台端末の効果的な活用や本質に触れる主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力の伸長を図る。
- ③ 相互授業参観や研究授業の実施、各種研究会への参加など、研修・研究に積極的に取り組み、教職員の授業力の向上を目指す。

(2) 個性が輝く学校

- ① 学習指導と進路指導の連携が取れ、3年間を見通した指導体制のもと、生徒に高い志を持たせ、一人一人の進路実現を図る。その際、低学年からのキャリア教育や探究活動を充実させ、学ぶ意欲や進路意識の高揚を図る。
- ② 「文武両道」「自主自律」の精神のもと、学習活動や部活動、学校行事、生徒会活動の充実を図り、レジリエンスの涵養と豊かな人間性・社会性・主体性を育む。

(3) 地域から信頼される学校

- ① 学校公開やホームページ等を通じて本校の教育活動を積極的に情報発信し、「保護者や地域から信頼される学校づくり」、「開かれた学校づくり」を推進する。
- ② 地域でのボランティア活動を推進するとともに、異校種間の連携を密にし、南加賀地区の基幹校としての自覚ある学校運営に努める。

(4) 教職員の働き方改善

- ① 各自がワークライフ・バランスやタイムマネジメントを意識して業務や部活動の効率化を進め、時間外勤務時間の縮減に努める。